

専門演習I・II(歴史・思想④) / 村松 晋 教授



人間が作り上げた全ての「作品」を、時代の中で読み解く

このゼミでは、美術や文学から宗教や民俗のしきたりまで、人間が作り上げたもの全てを「作品」と考え、それらを時代の中で読み解く面白さを追究します。ゼミでの議論を通し、時代の陰に追いやられた敗者や、名もなき者が育んだ文化に向ける眼を育むとともに、日本をアジアの中で考える視野を養います。日本文化学科のゼミは2・3年合同で開くため、相互に刺激し合い、各々の関心を共有しながら問題意識を深めていく力が身につきます。



2年生は、先輩の研究発表の見学・聴講から始め、興味を研究に深める方法を学びます。



2年次の秋から1年半をかけ、各自関心のあるテーマを選び、発表を重ねます。



これまでの研究の総まとめとして、卒業レポートの作成に挑みます。

卒業論文テーマ例

- ▶ 安倍晴明 —陰陽師が使う呪文と式神—
- ▶ 真田幸村・大坂夏の陣 —日本—の兵と言われる理由—
- ▶ 鬼の姿絵 —文化との融合によって変わる姿—
- ▶ 恋の和歌における夜 —『古今和歌集』恋部より—
- ▶ 葵上人物論  
—「問はぬはつらきものにやあらん」および「命だに」の引歌表現—
- ▶ 寛文年間における水戸藩の寺院整理  
—「破却帳」の分析を中心に—
- ▶ 若者の道徳心が無いからいじめなのか  
—「いじめ」と「道徳教育」の変遷を追う—
- ▶ 絵双六とは何か —衰退の研究—
- ▶ 石原莞爾 —社会的弱者への眼差しと当事者意識—
- ▶ 唐十郎の作品世界  
—タブーへの挑戦から『特権的肉体論』を読み解く—
- ▶ 短歌の未来性—俵万智の作品鑑賞を通して—
- ▶ 方言「かたす」の研究—「片付ける」「なおす」との比較から—